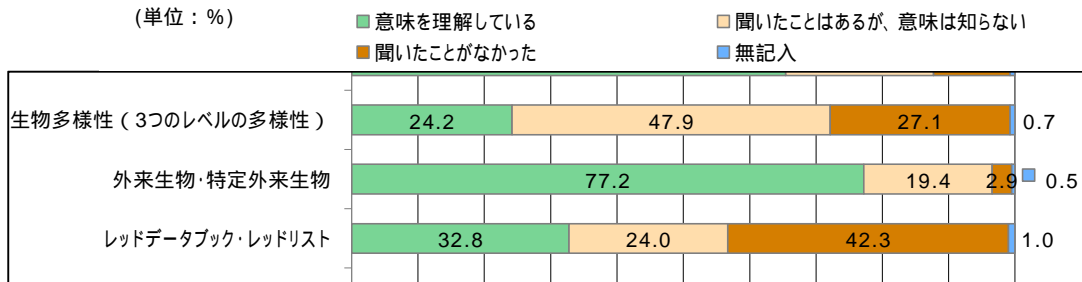


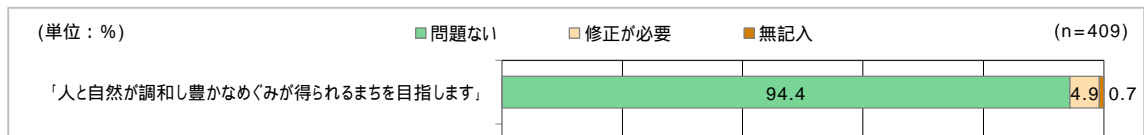
基本方針2に関するアンケート調査結果について

1 市民調査

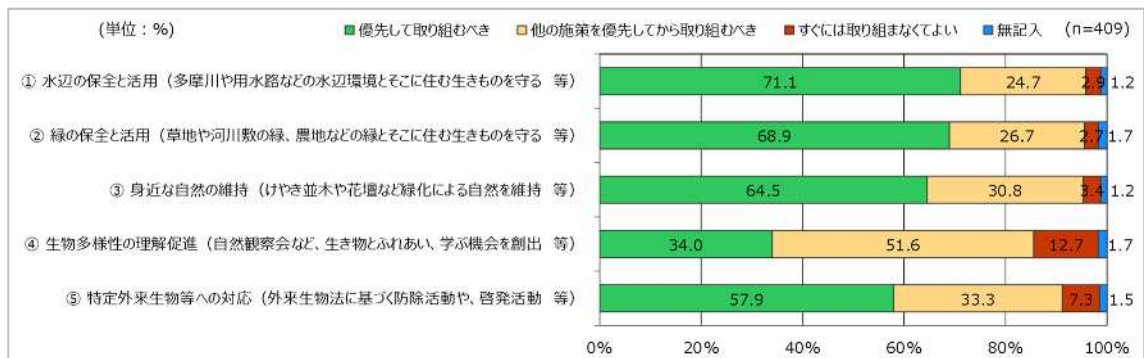
【環境に関する用語の認知度】



【基本方針案について】



【府中市の自然や生物多様性の保全に関する取組の優先度】



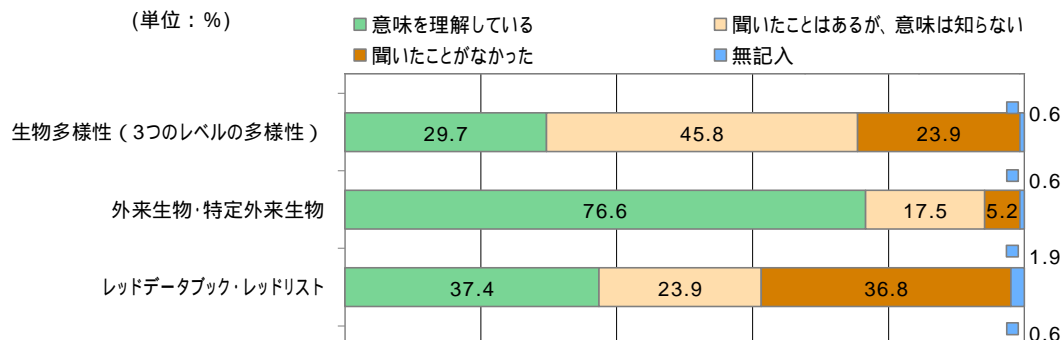
【クロス集計】生物多様性の保全 を「優先して取り組むべき」と回答した人の割合は10代を除いて若い年代ほど高い傾向にある。

自然環境が大切であるという漠然とした認識を持っている市民は多い一方で、生物多様性の概念や価値を理解している方は多くありません。そのため、「生物多様性の理解促進」を図ることが自然環境を保全するうえで根本的な取組であるという理解が得られておらず、取組の優先度を低く感じられているものと考えます。

生物多様性に対する市民理解の向上を図ることにより、生物多様性の普及啓発や保全のための取組の重要性も理解していただく必要があります。

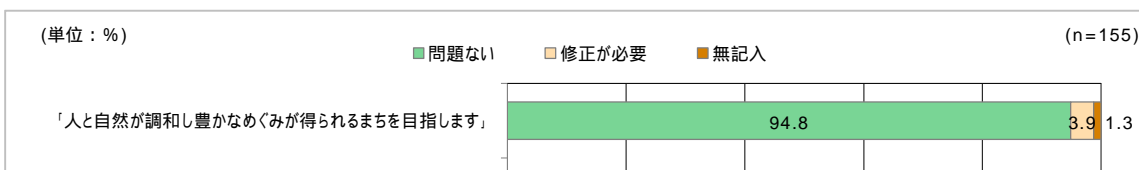
2 事業者調査

【環境に関する用語の認知度】



・従業員数が多い事業者ほど、「意味を理解している」人の割合が高い傾向にある。

【基本方針案について】



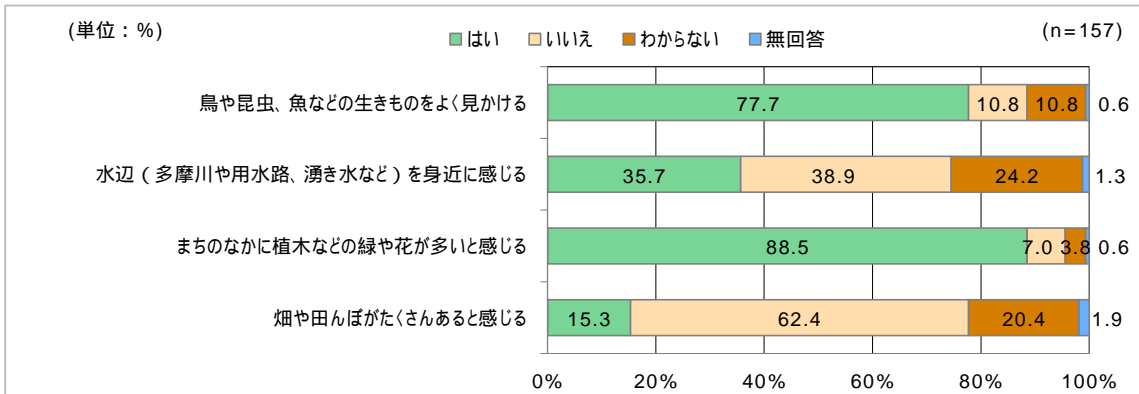
【府中市の自然や生物多様性の保全に関する取組の優先度】



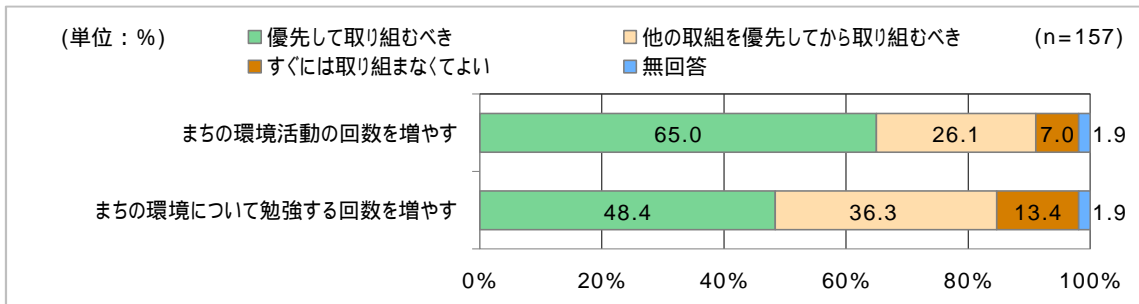
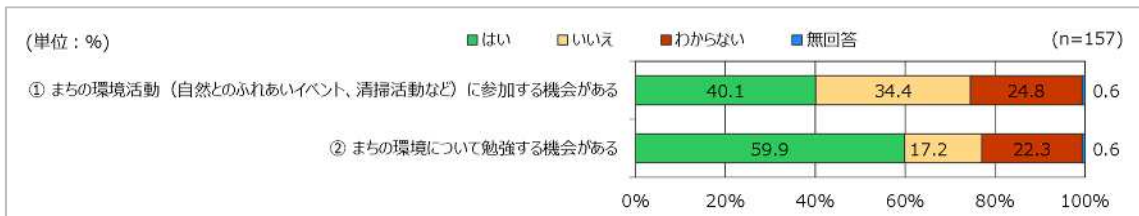
概ね市民調査と同様の傾向となっており、CSR活動等ですでに生物多様性をテーマに取り上げている大規模な事業所を除いては、生物多様性に対する認知は低く、理解促進の優先度も低い結果となっています。
生物多様性はあらゆる社会経済活動における主流化が求められており、市内の事業者が、生物多様性に配慮し、保全に貢献する企業活動の在り方について考えていただくため、普及啓発等の取組を推進していく必要があります。

3 小学生調査

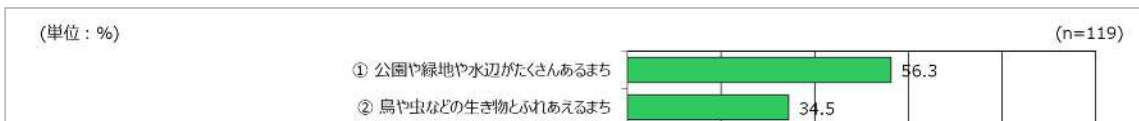
【府中市の生きものや自然について】



【府中市の環境学習について】

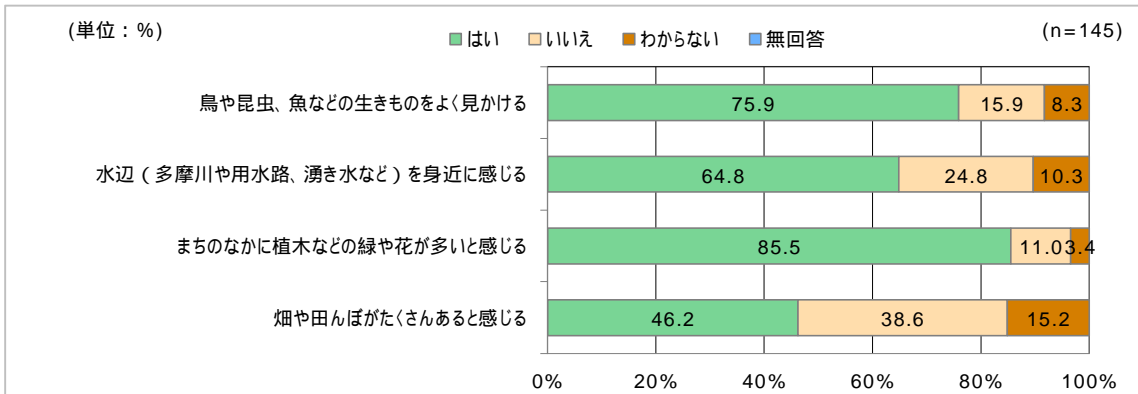


【「いいな」と思う未来の府中市】

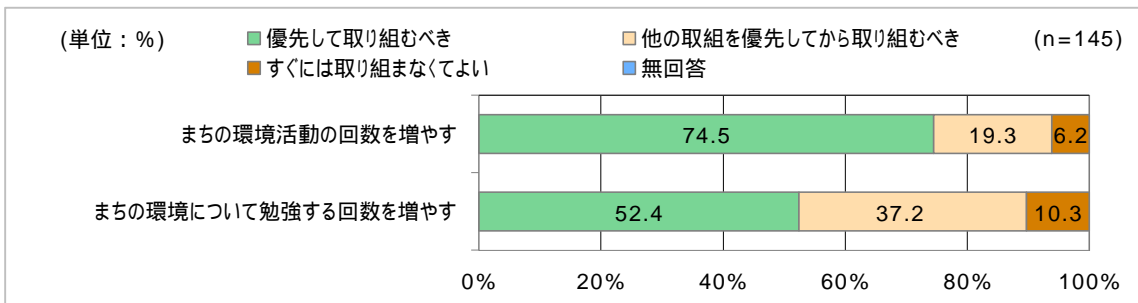
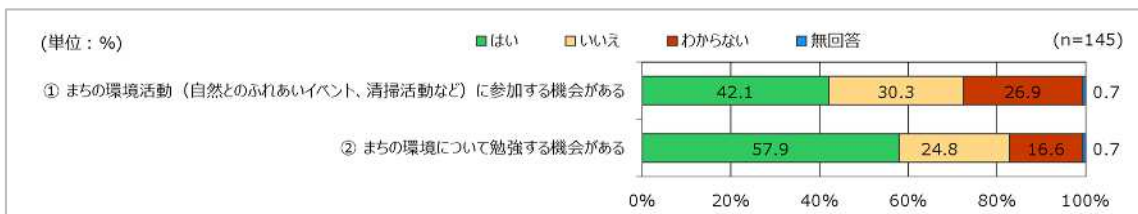


4 中学生調査

【府中市の生きものや自然について】



【府中市の環境学習について】



【「いいな」と思う未来の府中市】

